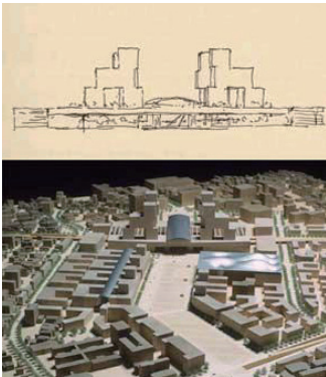


■大分駅南口地区公共施設等デザインガイドラインおよび景観形成方針〔財〕udc／大分市 2002-07

大分駅周辺の連続立体交差化事業に関連し、同駅南口の旧鉄道停車場および周辺敷地約50haを対象とした市街地開発事業が、地元出身建築家・磯崎新氏の構想に始まり、2001年度にふるさとの顔づくり計画書が作成されるも、国の承認には至らず、急速に財udcのもとでアブルで見直し・再検討を担当した（2002年度）。

その内容は既定計画の将来の都市開発イメージを前提とした公共施設デザイン指針であり、引き続き04～07年度にかけて、周辺街路景観形成方針を策定し、沿道宅地の地区計画原案に対する追加項目等を作成している。数か年の検討作業は公共空間デザインの手引書としてまとめられ、地元コンサルタントによって実施設計に移行し、実現に至っている。

なお、公共施設のうちのシンボル軸である南北駅前広場および大分駅上野丘線（100m道路）の設計者選定は2010年の大分都心南北軸トータルデザインプロポーザルに付され、その前提となる整備の目標、前提条件等に踏襲され、審査の結果、特定されたワークビジョンズ・西村浩氏＋パシフィックコンサルタンツを中心に、市民ワークショップ等を経て実現した。そして南北連絡自由通路も含む駅舎デザインに関してはJR九州によって完成した。



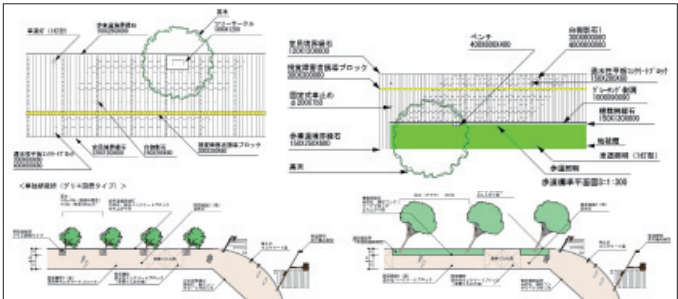
当初の磯崎新氏提案の構想（インサキアトリワーク）



大分駅南ふるさとの顔づくり 土地区画整理事業・全体計画図とシンボル軸縦断面図（大型複合施設イメージはインサキ構想を踏襲）



辻広場の提案（実施済み）



街路整備イメージ図

経緯 大分駅南土地区画整理事業公共施設等デザイン設計 '02.10～03.3 / 大分駅周辺街路景観形成方針検討 '04.9～12 / 大分駅南土地区画整理事業都市計画道路歩道照明設計委託 '05.10～06.3 / 大分駅南区画歩道舗装デザイン検討 '06.6～9 / 大分駅南区画道路照明デザイン検討 '07.7-8
諸元 事業名称：大分駅南土地区画整理事業事業主体（大分市施行） 施行面積：約49.6ha 事業期間：1996～2021年度

担当：中野、岩村、加藤、池田、田邊、松尾、空間